2019 年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立南港桜小学校

２０２０年３月

（様式１）

大阪市立南港桜小学校　２０１９年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

学校教育目標

「**みんながつくる　みんなの学校　桜小**」を合言葉に、「**すべての子どもが安心できる居場所のある学校**」をつくる。そのために、学校は授業を開き、地域に開かれた学校づくりを行う。たくさんの、さまざまな大人が子どもとふれあい、かかわり合える学校づくりを行う。そして「**自分で考え、自分から動く子ども**」「**自分も人も大切にする子ども**」「**失敗を恐れずに挑戦する子ども**」の姿をめざす。また、「**子どもから学ぶ大人のチーム**」「**すべての子どもを全教職員で見守るチーム**」「**できないことは人の力を活用するチーム**」「**『教える』から『促す』チーム**」の教職員チーム（チーム桜）をめざす。

現状と課題

６００人を超える児童数となり、コスモタウン地域からの児童数の増加に拍車がかかっている。よって遠距離からの通学者も増える中、児童の安全確保が課題となる。家庭や地域との連携の強化や防災・減災教育の充実も課題となる。学力学習状況調査の結果から、「自分の考えを持って文に書くことや自分で解釈して判断すること、さらに自分の考えを人に伝えること」が課題として考えられる。

２０２０年、日本の教育業界では、これからの社会で必要な２１世紀型の学力を身につけさせるべく、大学入試を筆頭に大学や高校の教育が改革される。今後、グローバル化の進展など社会の加速度的な変化が増し、将来の予測が難しい中において、自分自身の答えを考える力や自分の意思で結論を導き出す力、それを表現する力が求められる。また、文部科学省が発表した次期学習指導要領でも、一方的に知識を得るだけでなく、「主体的・対話的で深い学び」いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善をさらに充実させ、子どもたちがこれからの時代に求められる資質・能力を身につけ、生涯にわたって能動的に学び続けることを目指していく必要がある。

今後、子どもたちがなりたい自分になるために必要な力の育成（「人を大切にする力」、「学びに向かう力」、「自分で考え、表現する力」、「コミュニケーション力」など）を図る必要がある。そのために、「子どもが学ぶ・子ども同士が学び合う授業づくり」をテーマに「自分の言葉で伝えることができる子どもの育成」に取り組んでいく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

・㊥令和２年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を１００％にする。

・㊥令和２年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を９５%以上にする。

・㊥令和２年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。

・㊥令和２年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

・令和２年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、家庭・地域との連携を密にとっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を９０％以上にする。

・令和２年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページなどを通して、学校や子どもの様子をよくわかるようにしている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を９０％以上にする。

・令和２年度末の教育アンケートにおいて「**自分も人も大切にできている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を９０％以上にする。
・令和２年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、子どもを理解しようと努めている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を９０％以上にする。
・令和２年度末の教育アンケートにおいて「**学校や家庭・地域などで、地震や津波などの災害が起きたときにどう行動したらよいかわかっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５％以上にする。
・令和２年度末で、地域の人や学生などで学校支援ボランティア（読書・見守り・学習など）に参加する人数をのべ１００人以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

・㊢令和２年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
・㊢令和２年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より５ポイント減少させる。
・㊢令和２年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を２割以上上回る児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より５ポイント増加させる。
・㊢令和２年度の小学校学力経年調査における「**学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか**」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
・㊢令和２年度の全国体力・運度能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横とびの平均記録を全国平均より５ポイント向上させる。
・令和２年度末の教育アンケートにおいて、「**学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を９０％以上にする。
・令和２年度末の教育アンケートにおいて、「**授業はよくわかる**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を９０％以上にする。
・令和２年度末の教育アンケートにおいて、「**自分で考えて、自分から動くことができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を９０％以上にする。
・令和２年度末の教育アンケートにおいて、「**失敗を恐れずに、挑戦することができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を９０％以上にする。
・令和２年度末の教育アンケートにおいて、「**運動をするのが好きである**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５％以上にする。

２　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

・令和元年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を９５％以上にする。
・令和元年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を９０％以上にする。
・令和元年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
・令和元年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、家庭・地域との連携を密にとっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５%以上にする。
・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページなどを通して、学校や子どもの様子をよくわかるようにしている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５%以上にする。
・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**自分も人も大切にできている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５%以上にする。
・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、子どもを理解しようと努めている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５%以上にする。
・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**学校や家庭・地域などで、地震や津波などの災害が起きたときにどう行動したらよいかわかっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０%以上にする。
・令和元年度末で、地域の人や学生などで学校支援ボランティア（読書・見守り・学習など）に参加する人数をのべ８０人以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

・令和元年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
・令和元年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より４ポイント減少させる。
・令和元年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を２割以上上回る児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より４ポイント増加させる。
・令和元年度の小学校学力経年調査における「**学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか**」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
・令和元年度の全国体力・運度能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横とびの平均記録を全国平均より３ポイント向上させる。　㊎41.74　㊕39.62

学校園の年度目標

・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５%以上にする。
・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**授業はよくわかる**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５%以上にする。
・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**自分で考えて、自分から動くことができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５%以上にする。
・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**失敗を恐れずに、挑戦することができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５%以上にする。
・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**運動をするのが好きである**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０%以上にする。

３　本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

・全市共通目標の４項目においては、概ね目標を達成することができた。しかし、不登校になる児童については、昨年度末よりも一人増えており、学校目標である「**すべての子どもが安心できる居場所のある学校**」の達成に向けてさらなる前進が必要だと考える。
・学校園の年度目標の６項目においては、概ね目標を達成することができた。「学校ホームページによる発信」はとても高い数値結果となり、学校に対する興味や関心が高いことを物語っていた。また、地域人材の発掘においては予想をはるかに上回る人材が発掘でき、「**社会に開かれた教育課程**」の実現にむけてまた一歩前進している。
・取組内容①の安全で安心できる学校、教育環境の実現では、３項目すべて目標が達成できた。「全児童確認ボード」も継続して取り組んできたことで、教職員の中で定着してきており、児童の情報共有の手段となっている。教科担任制やシャッフル授業などを積極的に行い、今後も「**すべての子どもを全教職員で見守るチーム**」を目指し続ける。
・取組内容②の地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援では、３項目が目標達成できた。図書館利用者は増加の一途である。「大人と子どもが学び合う場」は予想をはるかに超えるゲストティーチャーとの出会いの場を創造できた。今後も「さくらチャンネル」をベースにして、様々な感性を養う活動や体験的な活動を取り入れていく。得に次年度は「４０周年」であり「人・もの・こと」との出会い・ふれあいをテーマに「心に残る一年プロジェクト」を計画しており、「大人と子どもが学び合う場の創造」に向けて、拍車をかけたいと考えている。
・取組内容③の安全で安心できる学校、教育環境の実現では、目標は達成したものの、防災、減災教育のより充実した取組みの必要性を確認し合い、次年度への課題とする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

・全市共通目標の５項目においては、経年調査における７割に満たない児童の割合の目標達成も２割以上上回る児童の割合の目標達成もいずれも４年生のみの達成となり、他学年については継続した指導の必要性がある。学力向上へのさらなる取り組みの進化が必要であり、これまで積み上げてきた「**学び合う**」授業づくりの進化と継続を全教職員が一丸となって進めていく必要がある。体力・運動能力の結果は全国比より低い結果となり、これも継続した取り組みをしていく必要がある。
・学校園の年度目標の５項目においては、いずれの目標も達成ができた。「**自分で考え、自分から動くことができている**」や「**失敗を恐れずに、挑戦することができている**」は、めざす子どもの力として位置づいており、目標達成できたのは、子どもたちが意識できた結果である。
・取組内容①の子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組では、４項目すべて目標が達成できた。なかでも小国教授を招聘しての「**学び合い**」研究では、学術的論点からの示唆や全国の動向を踏まえての実態報告など、広い視点からの学びができた。また、「**すべての子どもが安心できる居場所のある学校**」づくりにとってのヒントや考え方を教職員とともに考える機会を持つことができた。さらに、教職員が主体的に学ぶ合うための研究室の取り組みでは、「自分が学びたいことを自分から学ぶ教員の姿」があり、「国語、算数、体育、図工、学校づくり、学び合い、プログラミング」の７つのサークルが結成され、意欲的に研修することができた。放課後学習の「e-ラーニング学習」には取り組むことができなかった。次年度は子どもサポート事業も活用しながら、実践していく予定である。

・取組内容②の国際社会において生き抜く力の育成では、５項目中、３項目においては目標を達成できた。なかでも次期学習指導要領にある「**プログラミング教育**」については、上田教授による全３回の講義や研修によって、４月からの実践に向けて研鑽ができた。ＩＣＴ拠点校として、引き続き全市へ発信できるように研鑽していく必要がある。
・取組内容③の健康や体力を保持する力の育成では、反復横跳びの平均記録が全国を下回った。体力づくりや日頃の体育学習などで基礎体力の向上を図る必要がある。「運動するのが好きである」は大きな伸びはなく、次年度に向けての課題となる。また健康面での具体的な目標設定を家庭との協力をしながら、徹底していく必要がある。

（様式２－１）

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した	Ｂ：目標どおりに達成した
Ｃ：取り組んだが目標を達成できなかった	Ｄ：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 全市共通目標（小・中学校） ・令和元年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて解消した割合を９５％以上にする。　**１００％ ↑** ・令和元年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を９０％以上にする。　**９７％ ↑** ・令和元年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。　減　少 ・令和元年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる　１人⇒２人 学校園の年度目標 ・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、家庭・地域との連携を密にとっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８5%以上にする。　**９２% ↑** ・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、学校だよりや学年だより、学校ホームページなどを通して、学校や子どもの様子をよくわかるようにしている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８5%以上にする。　**９８% ↑** ・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**自分も人も大切にできている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８5%以上にする。　**９５% ↑** ・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**学校は、子どもを理解しようと努めている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８5%以上にする。　**９４% ↑** ・令和元年度末の教育アンケートにおいて「**学校や家庭・地域などで、地震や津波などの災害が起きたときにどう行動したらよいかわかっている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０％以上にする。　**７８% ↓** ・令和元年度末で、地域の人や学生などで学校支援ボランティア（読書・見守り・学習など）に参加する人数をのべ８０人以上にする。　５００人以上	Ａ：８ Ｂ：19 Ｃ：４ Ｄ：０

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ・職員室に情報が集約されるよう、どんな些細なことでも何かあれば職員室に伝えることや「全児童確認ボード」を活用して、最新の児童情報を共有する。 ・不登校児童が安心できる居場所を学校につくるため、全ての教職員で見守る体制をつくる。 ・「すべての子どもを全教職員で見守る」ために、教科担任制やシャッフル授業、ローテーション授業などを積極的に取り入れ、様々な大人が関わることのできる環境づくりを推進する。	Ａ：８ Ｂ：19 Ｃ：４ Ｄ：０

指標 ・週２回の職員朝会で、子どもの情報共有をし、全教職員で早期の課題対応をする。 ・校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。(不登校０を目指す) 1人⇒２人 ・教育アンケートにおいて「**学校に行くのが楽しい**」と肯定的な回答をする割合を８０％以上にする。 **８５％ ↑** ・教育アンケートにおいて「**困ったときに学校の大人は相談にのってくれる。**」と肯定的な回答をする割合を８０％以上にする。 **９０％ ↑**	
取組内容②【施策３　地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 ・学力向上のために図書館蔵書の充実による読書力の向上を図るとともに、調べ学習の充実や読書に親しむ機会を増やすために、移動書庫による学級間の交流を図る。また、さくらスマイルなど地域や保護者による図書館開放の充実を図る。 ・「子どもと大人が学び合う場」の創造に向けて、「生涯学習ルームとのコラボ」や「さくらタレントバンク」を活用して、「社会に開かれた教育課程」を推進していく。	
指標 ・年間の児童の貸し出し冊数の平均を一人３５冊とする。 **２９冊（2月中旬現在）** ・毎週 3 回以上（地域「さくらスマイル」・PTA「大人の図書館」・学校「図書館活性化事業」）図書館を開放する。 ・年間１０回以上、大人と子どもがともに学び合う場を創造する。 防災学習（区役所）・防犯教室（住之江警察）・走り方教室（大阪ガス）４回・スポーツと歯の健康（歯科校医）・バレーボール夢授業（堺ブレイザーズ）・キャリア教育（カリスマ美容師）・落語体験（落語家）・道徳（立命館大学　荒木教授）・ラグビー（ドコモ　レッドハリケーンズ）・南米音楽楽器・オリックス（ティーボール）・お話会・国語（桃山学院教育大学　二瓶教授）２回・昔のくらし体験・学校保健委員会（辻由起子先生）・音楽鑑賞会（相愛大学）・プログラミング（同志社女子大学　上田ゼミ）・おしごと算数（TSUTAYA　T-KIDS シェアスクール）・ヨガ・つぼみスクール（ワコール）・琴・囲碁・など全 26 回 ・教育アンケートにおいて、「**学校は地域の人材を活用したり、様々な感性を養う活動や体験的な活動を取り入れたりしている**」の肯定的な回答をする割合を８５％以上にする。 **９７％ ↑**	A:16 B:14 C: 1 D: 0
取組内容③【施策１　安全で安心できる学校、教育環境の実現】 ・防災、減災教育の充実に向けて、学年に応じた「防災・減災教育」に積極的に取り組む。	A:16 B:14 C: 1 D: 0
指標 ・教育アンケートにおいて「**学校や家庭・地域などで、地震や津波などの災害が起きたときにどう行動したらよいかわかっている**」と肯定的な回答をする割合を７０％以上にする。 **９０％ ↑**	

達成状況や改善点など
①　「不登校児童への対応（実態把握や情報共有など)」が不十分であった。大人が全員で子どもを見ることはできてきてはいるものの、子どものことについての話題が職員室でもっとできればよかった。人権課題を組織で共有し、組織で対応していく必要がある。 ➡教職員間の連携強化、子どもの情報共有、問題対応などを迅速に行うこと。職員朝会での共有のみならず、SKIP 会議室や掲示板等を活用して、瞬時の情報共有と早期対応を心掛ける。 ➡シャッフル授業や教科担任制のメリットは感じているため、次年度にはさらに具体的な動きとして、高学年の教科担任制を行い、たくさんの大人の目で子どもたちを見守る体制づくりを構築する。

② 図書館開放の日数が増え、図書館を利用する児童や読書を進んでする児童の数は増えてきた。委員会活動では様々な工夫が見られて、子どもから動く姿が多く見られた。
➡蔵書の数や質を追求した図書館の充実や図書委員会、さくらスマイル（ボランティア）の活動をさらに充実させることで、自分から進んで図書館を利用して、読書に親しむ子どもを増やしていく必要がある。
「大人と子どもの学び合いの場」の構築は教職員発信でかなりの数を実践することができた。今後は NSO(PTA)とも連携して、「さくらチャンネル」をベースに取り組みを広げていく。様々な外部からのゲストティーチャーとの学びは充実していたものの、事前の打ち合わせや相談、年間を通しての継続した流れ、見通しを持った学習計画などを充実させることでさらなる効果が期待できる。
➡学校と地域のつながりができつつあるので、そのつながりをさらに広げて、「大人と子どもがともに学び合う場」の創造に向けて計画していく。また、次年度は４０周年であり、「人・もの・こと」と出会い、ふれあう１年にするためにも「地域を巻き込んでの学びの空間」を創造していく必要がある。
③ 防災に関するアンケート調査においては子どもの評価は高いものの、保護者の評価が低いため、保護者を巻き込む必要がある。また、年間を通した計画的な取り組みの構築とともに、そこに関わる大人がどう動くのかを大人自身が考えていく必要がある。
➡上記課題を考慮しながら、引き続き「防災・減災教育」に取り組んでいく。

評価基準　Ａ：目標を上回って達成した　　　　　　　Ｂ：目標どおりに達成した
　　　　　Ｃ：取り組んだが目標を達成できなかった　Ｄ：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】 全市共通目標（小・中学校） ・令和元年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。4年 98.3↑102.7　5年 100.9↓99.7　6年 102.9↓101.5 ・令和元年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の７割に満たない児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より４ポイント減少させる。 4年 18.3↓6.7　5年 10.6↑13.5　6年 7.2↑16.0 ・令和元年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を２割以上上回る児童の割合を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より４ポイント増加させる。 4年 25.8↑36.0　5年 25.5↓25.0　6年 41.2↓31.9 ・令和元年度の小学校学力経年調査における「**学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか**」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。　65.6→70.6↑ ・令和元年度の全国体力・運度能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横とびの平均記録を全国平均より３ポイント向上させる。㊎41.74　㊕39.62　↓ 学校園の年度目標 ・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている**」の保護者の「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５%以上にする。　**９６% ↑** ・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**授業はよくわかる**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５%以上にする。　**９３% ↑** ・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**自分で考えて、自分から動くことができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５%以上にする。　**９０% ↑** ・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**失敗を恐れずに、挑戦することができている**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８５%以上にする。　**９１% ↑** ・令和元年度末の教育アンケートにおいて、「**運動をするのが好きである**」の子どもの「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える割合を８０%以上にする。　**８４% ↑**	A：３ B:25 C：１ BorC １ D：０ 無:1

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①**【施策５　子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】** ・授業を「教える」から「学ぶ（促す）」に変革していくために、「子どもが学ぶ・子ども同士が学び合う」の授業に取り組む。（がんばる先生支援事業活用）（校長経営戦略支援予算（基本）の活用） ・学年に応じた「体験活動」を通じて、「学びに向かう力」の育成を図る。 （校長経営戦略支援予算（基本）の活用） ・習熟度別少人数授業や個に応じた指導やICT機器の活用などを通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習意欲の喚起と定着を図る。 指標 ・「学び合い」のスペシャル講師（東京大学の小国教授）を年３回招聘（同時に実践家の招聘）し、授業研究をする。　２回（１回は感染症対策で中止） ・低中高のセクション部会の連携協力を密にして、みんなでつくる研究体制（「一人一授業公	A：７ B:22 C：１ D：０ 無:1

開」や「SCL：Sakura Circle Laboratory（桜小の教職員が主体的に学びための研究室）」の充実を図る。 国・算・体・図工・学び合い・学校づくり・プログラミング ・放課後学習（週３日のこども学習サポート教室）を活用して、e-ラーニング学習を行う。 ・教育アンケートにおいて、「**学校の授業などで、学級の友達との間で、話し合う活動をよく行っている**」の肯定的な回答をする割合を８５％以上にする。 **９６％ ↑** ・教育アンケートにおいて、「**授業はよくわかる**」の肯定的な回答をする割合を８５％以上にする。 **９３％ ↑**	
取組内容②【施策６　国際社会において生き抜く力の育成】 ・ICT を活用した教育やプログラミング教育に取り組み、子どもの思考力や表現力を育てる。 ・毎週の英語のモジュール授業に取り組み、基礎基本の英語を大切にしていくとともに、Skype を活用して、「世界への窓」として英語圏の国との交流を図る。	
指標 ・校内調査において「タブレットを使うと、自分の意見や考えをわかりやすく説明することができる」の肯定的な回答をする割合を８０％以上にする。 **７２％ ↓** ・校内調査において「タブレットを使うと、自分の考えや調べたことをわかりやすくまとめることができる」の肯定的な回答をする割合を８５％以上にする。 **７８％ ↓** ・「プログラミング教育」のスペシャリスト（同志社女子大学の上田教授）を年３回招聘し、「協同的・創造的思考家」（クリティカルシンカー）を育てるためのプログラミング教育」を研究テーマに授業実践を行う。（がんばる先生支援事業活用） ３回 ・教育アンケートにおいて、「**失敗を恐れずに、挑戦することができている**」の肯定的な回答をする割合を８５％以上にする。 **９１％ ↑** ・教育アンケートにおいて、「**英語の学習は楽しい**」の肯定的な回答をする割合を７５％以上にする。 **８２％ ↑**	A：0 B:19 C:10 BorC ２ D：0
取組内容③【施策７　健康や体力を保持する力の育成】 ・体育科の授業を中心に、各種学習カードを活用するなど、より進んで体力づくりに取り組む。 ・「手洗い習慣の定着」を図り、自分の体は自分が守ることを基本に、健康維持を促進する。	
指標 ・全国体力・運度能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横とびの平均記録を全国平均より３ポイント向上させる。 **(全)41.74 (桜)39.62 ↓** ・教育アンケートにおいて、「**運動をするのが好きである**」の肯定的な回答をする割合を８０％以上にする。 **８４％ ↑** ・教育アンケートにおいて、「**ハンカチ・はなかみを持ち、食事の前には手洗いができている**」の肯定的な回答をする割合を９０％以上にする。 **９０％ ↑**	A：2 B:25 C：4 D：0
達成状況や改善点など	
① 研修が集中している時期があったので、セクション部会の持ち方や研修会への参加の方法など、教職員の意識を共有する必要があった。 ➡教育活動の目標を全教職員が共有し、具体的な手立てや指導法を話し合い、評価していく一連の流れを大事にしていく。基礎基本の学力をしっかりつけるように日々の授業を大切にする。SCL(桜サークルラボ)については、引き続き大人の主体的学びとして推進していく。「こどもサポート」のさらなる進化を図る（「メーカースペースの創造」） ② タブレットを使った授業づくりに困惑したところがあった。日々の活用や共有が必要である。ICT 活用に関しての現場実践に近い研修の必要性がある。プログラミングを学ぶのではなく、プログラミング的思考を学ぶことを周知徹底するべき。 ➡今年度のプログラミング研修３回の学びをベースに、次年度も引き続きプログラミングや ICT に関する研修が必要。タブレットは高学年が一人一台となるため、より効果的な活用方法を学んでいく必要がある。	

③　「走れ走れ大会」は子どもたちの意欲が高かった。「なわとび週間」は意欲アップにつなげにくい。チャレンジカードなど、学年ごとにはあるものの、学校で共有できる何かがほしい。体力テストを軸にした体力の向上には教員の知識の質にも関係するため、研修の必要がある。

➡体育部とも連携しながら、体力の向上をめざして次年度も取り組む。

「手洗いの音楽」を日々流し続けたことで、手洗いの習慣がついてきた。ハンカチ・はなかみ・手洗いのアンケート回答には肯定的な回答が多いものの、子どもの実態が伴っていない感じがする。家庭の協力も不可欠である。

➡日々の取り組みの継続と保護者への啓発も含めて粘り強く取り組んでいく。